

学校図書館支援センター通信

NO 6

3月号

平成19年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



広げよう！朝の読書

～学校の特色を生かして～



読書は、「言語力」の基礎を培うと言われます。文部科学省が「朝の読書」を積極的に推奨して、既に5年半（ ）今や全国の7割の小・中学校で定着し、実施されています。（平成20年2月29日現在 総実施校数：小15,922校 中7,692校 朝の読書推進協議会調べ）

市川市でも、本好きの子どもを育てるため、学校の特色を生かしながら取り組まれています。特に、中学校では、その効果が読書に留まらず、生徒の落ち着いた生活を促すなど学校生活全体への影響が大きく、ほぼ全校で実施されています。小学校では、読み聞かせが中心のようです。

市内の小学校と中学校の様子を、お二人の司書教諭に伝えていただきました。皆さんの学校ではいかがですか？

【 『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』（平成14年8月、閣議決定）】

週2日、朝読書の時間がある。担任による読み聞かせや子どもたちの自由読書を中心に行っている。一人で長い読み物を読むことが難しい低学年へは、隔週で図書委員の児童が読み聞かせに行っている。



図書委員の読み聞かせ

また、ペガサス（読み聞かせボランティア）による読み聞かせは、全学年対象である。春と秋の読書週間中には、高学年の全員が低学年のきょうだい学級へ読み聞かせに行く活動も行っている。

朝読書で、低学年の間にいろいろな人の読み聞かせを聞き、お話の世界を旅することが、高学年のひとり読みにつながっている。

また、図書室の貸し出し冊数も増えており、進んで読書しようとする児童が多くみられる。本好き、読書好きにつながっている活動である。（鬼高小学校 司書教諭 齊藤千津）

平成14年度より全校で実施、6年が経つ。生徒は好きな本を用意し（本や読み方のルールは全職員で年度当初に確認）毎朝15分間、年間を通し読書をしている。年度を追う毎に定着し、静かな落ち着いた雰囲気で一日の生活が始まっている。「朝の読書」は、忙しい中学生に読書の時間を設定することにより、読書好きにさせたり、読書の楽しさを知らせたりする良いきっかけになる。



毎朝15分間の読書

成果としては、長期間の取り組みにより「国語の力（読み・漢字・語彙）の向上」や「読書量の増加・読書の習慣化」、図書館利用の活性化による「貸出数の増加」などがあげられる。「この学校にこの時間があるのが当たり前の気持ち」という生徒の感想のように、生徒にも大変好評である。（妙典中学校 司書教諭 増田栄子）

学校図書館支援センター推進事業「合同会議」開かれる！

2月26日（火）大洲小学校学校図書館を会場に、『協力校・調査研究員合同会議』が開催されました。事務局からの事業報告の後、各協力校より児童生徒の「豊かな心」や「自ら学ぶ力」を育む観点から、自校の読書活動や学校図書館を活用した授業づくりについて、『実践報告』がありました。

最も顕著だったのは、支援センター事業で学校図書館員の勤務日数が増え、図書館経営が充実したことです。司書教諭や先生方との打ち合わせも綿密にできるようになり、小・中学校を問わず、日常的な「読書環境づくり」や授業での「学校図書館活用」が、より活発に実施されています。

小学校では、年間を通じての読み聞かせや、中学校との交流授業や読書交流、幼稚園児への読み聞かせなど、学校ごとに様々な活動が工夫されていました。中学校では、年間を通じての朝読書の実施、使いやすい学校図書館への改造、図書館活用授業数の圧倒的な増加、図書委員会の活発な活動ぶりなどが報告されました。

また、小林路子先生（支援スタッフ）増田進校長先生（調査研究員会議委員長）より、「図書館活用にあたっては、『子どもに身に付けさせたい力』を明確にした実践が大切である。」司書教諭を中心にした学校図書館部会のより一層の充実を図る。」など、今後の研究の方向性についても、ご指導をいただきました。

各協力校の実践についての詳細は、来年度、研究冊子並びに研修会において、広く市川市内外に紹介していく予定です。

図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



「にじいろの会」は、塩焼幼稚園の園児に読み聞かせをする児童のボランティアの会です。今年度の会員は220名。選書し、読む練習を積み重ねて本番に臨みます。

活動は、塩焼タイムの30分間、視聴覚室・わくわくルーム・ふむふむルームは、たちまち会員と園児が交流する場に様変わりします。

いつも聞く側である会員が読み手になることは、子どもたちを成長させます。聞き手が園児であることが、選書の時に読み取った作者の想いを伝えようとする会員の気持ちを一層強くさせるのです。

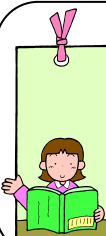
読む技術の習得より、想いを伝えようとするその姿は、虹色に輝いています。（塩焼小学校 学校図書館員 入間川祥子）



園児への読み聞かせ

路子の部屋

『子どもの読書サポーターズ会議』（文部科学省）に参加させてもらっています。私ごときがなぜ、委員に加えられたかといえば、それは市川市を代表してということになります。会議でいつも再認識することは、市川では「当たり前」の学校図書館が、全国的には極めて恵まれた特別の図書館であるという事実。先生方！日本のトップレベルの学校図書館を使わないで授業するなんて、もったいないですよ！



支援スタッフ酒井さん、約4ヶ月で、延べ26校の学校図書館を訪問しお手伝いをさせていただきました。どの学校でも大変喜んでいただき、支援センターとしても嬉しい限りです。本年度も学校図書館教育事業へのご協力をいただきまして、ありがとうございました。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

